

第4章 マレーシアにおける日本語予備教育プログラムの現状

第4章では、海外において日本語予備教育プログラムを重点的に行っているマレーシアに焦点を当て、現地調査で予備教育課程の教職員との意見交換や学生とのアンケートを通じて、日本語予備教育課程の現状および今後の方向性をまとめる。

4-1 マレーシアにおける日本語予備教育プログラムの現状

ここでは、マレーシアにおける主な日本語予備教育課程の現状を把握すべく、現地調査でのヒアリングやアンケート調査により、予備教育プログラムの概況及び現状を述べる。

4-1-1 日本語予備教育プログラムの概要

下図表はマレーシアにおける日本語予備教育プログラムの概要をまとめたものである。

図表 4-1-1 マレーシアにおける日本語予備教育プログラムの概要

プログラム	設立概要	予備教育課程の現状	日本への進学方法	学生数
マラヤ大学 日本留学予 備教育課程 (AAJ)	マラヤ大学日本留学予 備教育課程(AAJ)とマ レーシア工科大学高専 予備教育課程は1983年 マレーシア政府が提唱 した東方政策(ルックイ ーストポリシー)の一環 として日本政府の協力 の下で開始されたマレ ーシア政府派遣日本留 学プログラム	高校卒業生を対象に2 年間をかけマラヤ大 学で日本語と日本の 高校の教科科目に関 する予備教育を実施	文部科学省試験を合 格した学生が文部科 学省の配置により日 本の国立大学の1年生 に直接留学する	年間約 160名
マレーシア 工科大学高 専予備教育 課程*	マレーシア工科大学高 専予備教育課程は1983年 マレーシア政府が提唱 した東方政策(ルックイ ーストポリシー)の一環 として日本政府の協力 の下で開始されたマレ ーシア政府派遣日本留 学プログラム	高校卒業生を対象に2 年間をかけマレーシ ア工科大学で日本語 と教科に関する予備 教育を実施	文部科学省試験を合 格した学生が文部科 学省の配置により日 本の高専の3年生に 編入する	年間約 60名
アジア・ユ ース・フェ ローシップ (AYF)	平成7年度より外務省支 援の下で東南アジア11 カ国の大学学部卒業生 を対象とする日本の大 学院留学予備教育がマ レーシアの全寮制予備 教育センターで実施さ れている	2月から翌年3月まで 約14ヶ月間日本語を 中心とした予備教育 を行う	プログラム終了後は 文部科学省国費研究 留学生として日本の 大学院に留学する	年間18 名
日本マレ ーシア高等 教育大学連 合(JAD)	平成11年度からマレ ーシアで「ツイニング・プ ログラム」を導入し、日 本の大学教育の一部を 実施し、その後日本の大 学の2年生に編入するプ ログラム	1年目の予備教育(日 本語の基礎と日本高 校3年生理数科目)と 2年目の大学1年目専 門科目に分けられる	私費留学生としてJAD 協力大学コンソーシ アムの大学の試験を 受け、日本の大学の2 年次に編入する	年間約 70名

注：*マレーシアでの教員不足により2001年～2003年の3年間において、2年生は(財)国際学友会で2年次の日本語及び教科教育を受けているが、2004年より1年生と2年生の予備教育はマレーシアのUTMで行うことになっている。**JADは2004年現在の2年次が最後であり、2005年3月に終了予定である。

出典：既存文献及びヒアリングより作成

4 - 1 - 2 日本留学や予備教育課程の現状

本節では、マレーシアにおける予備教育課程の在學生に対するアンケート調査やヒアリングを行い、予備教育課程の現場に携わっている教職員に対する意見を交換し、日本留学や予備教育課程の現状を整理する。

(1) アンケート調査概要

マレーシアにおける予備教育課程の在學生に対するアンケート調査の概要は以下のとおりである。

図表 4-1-2 マレーシア予備教育課程在學生に対するアンケート調査の概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none">➤ マラヤ大学日本留学予備教育課程 (AAJ) に在籍の2年次生➤ マレーシア工科大学高専予備教育課程に在籍の1年次生➤ アジア・ユース・フェローシップ (AYF) に在籍の第8期生➤ 日本マレーシア高等教育大学連合 (JAD) に在籍の1年次生
調査方法	現地の予備教育課程において本調査の趣旨及びアンケート調査項目を説明し、その場記入し、回収する
調査期間	2004年1月26日～30日
回収数	301通

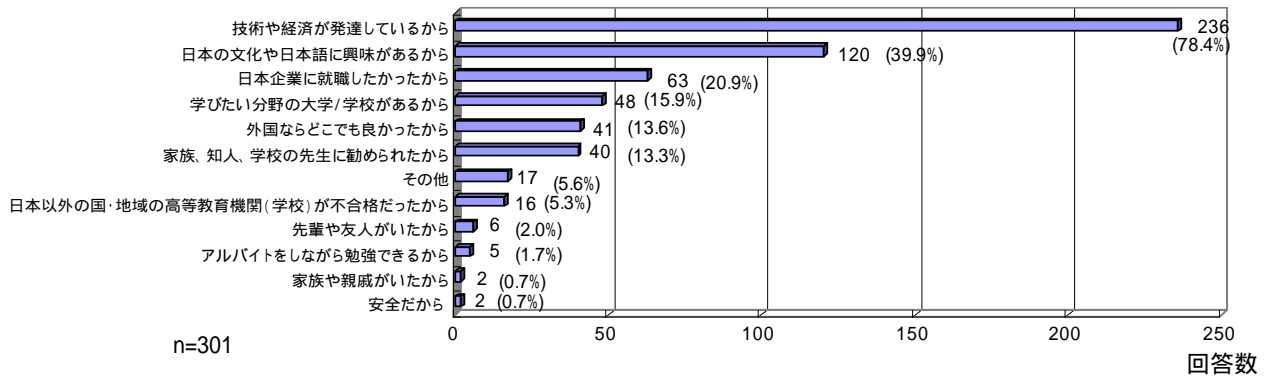
以下では、日本留学の現状について、日本留学動機、日本留学に関わる情報入手状況やルート、外国留学理由、海外留学先や希望留学国、日本留学に関わる不安や日本留学終了後の希望進路を設問した。また、予備教育課程の現状に関しては、日本語教育のレベル、理数系教科の教育レベル及び予備教育課程全般に関する満足度について質問を行った。

(2) 日本留学の現状

➤ 日本留学動機

「技術や経済が発達しているから」が78.4%と圧倒的に多い。続いて、「日本の文化や日本語に興味があるから」が39.9%である。この傾向は在日ASEAN及び元留学生と類似している。

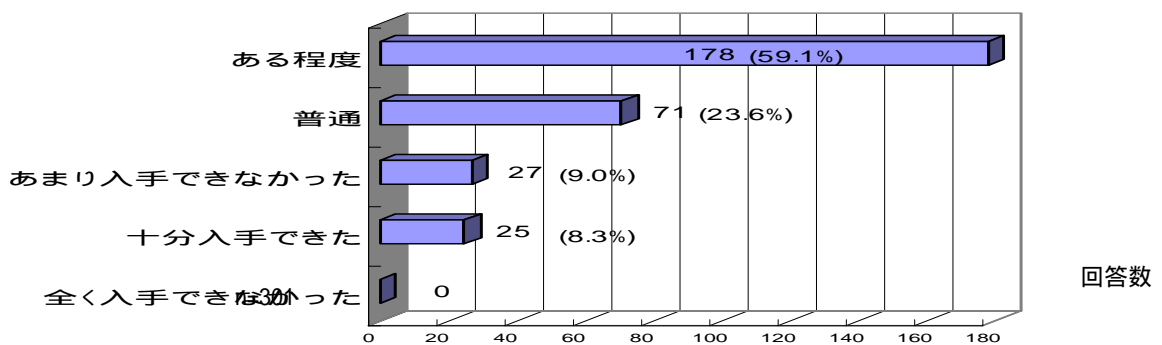
図表 4-1-3 日本留学動機



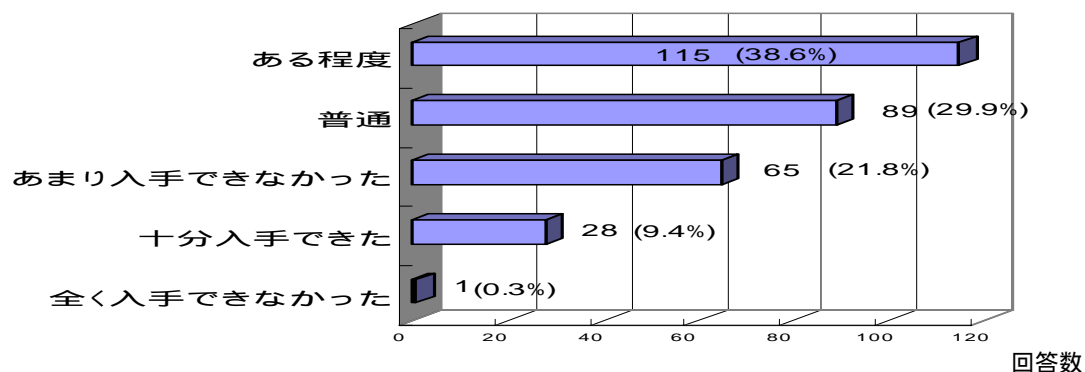
➤ 留学準備

日本の生活情報の入手に関し67.4%が入手できたが、学校情報の入手に関しては48%しか入手できないと回答しているように、学校に関する情報提供が不足している。

図表 4-1-4 日本の生活情報の入手度合い



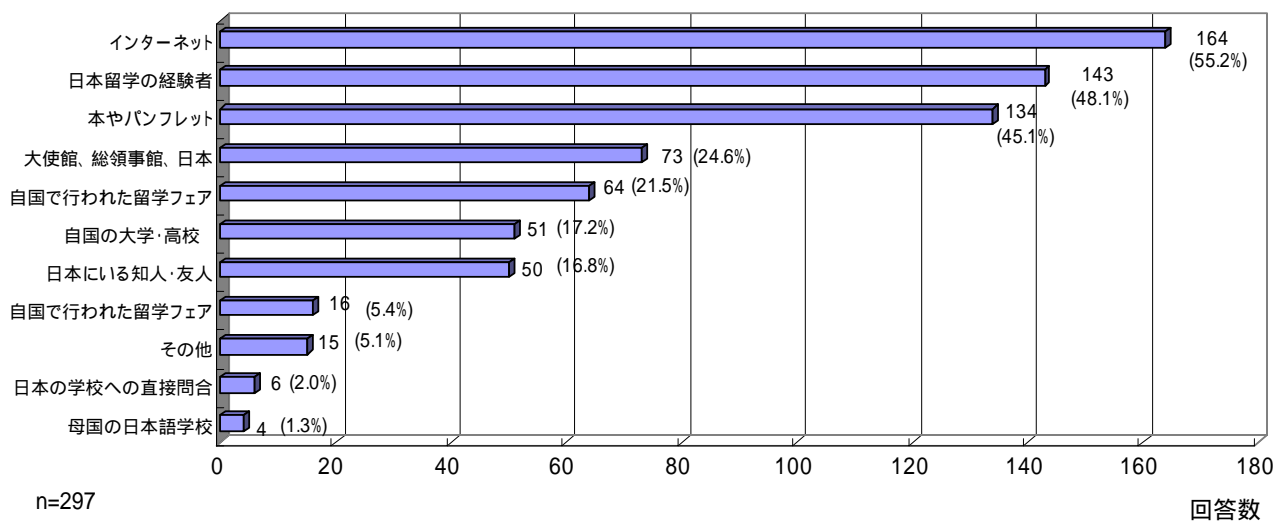
図表 4-1-5 日本の学校情報の入手度合い



➤ 日本留学情報入手ルート

インターネットが 55.2%、日本留学の経験者が 48.1%、本やパンフレットが 45.1%と上位を占めている。既述したとおり、インターネットによる情報入手の依存度は、在日 ASEAN 留学生や元留学生よりも高いことが分かった。

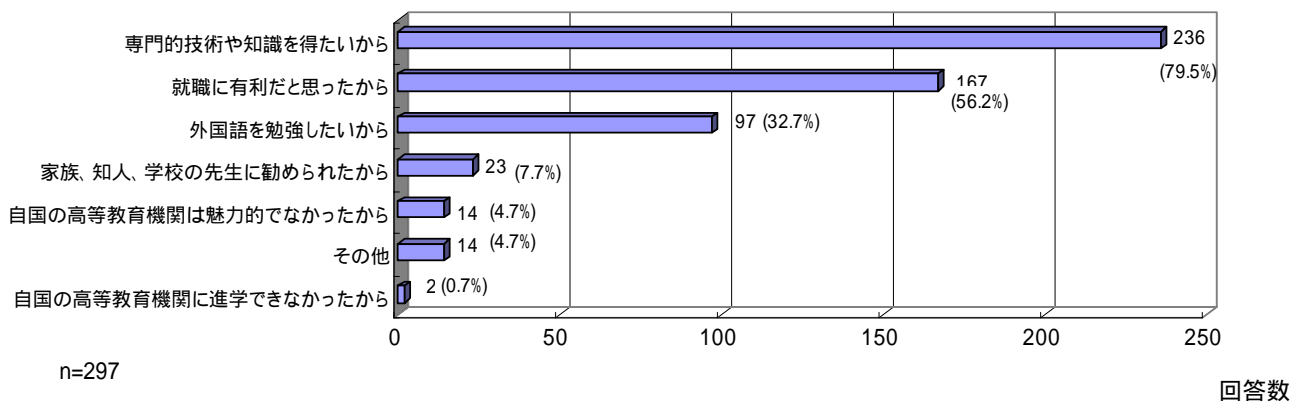
図表 4-1-6 情報入手ルート



➤ 外国留学理由

「専門的技術や知識を得たいから」が 79.5%と圧倒的に多く、「就職に有利だと思ったから」が 56.2%と続く。外国留学の理由については、予備教育課程に在学している学生と在日 ASEAN 留学生及び元留学生とはほぼ同じである。

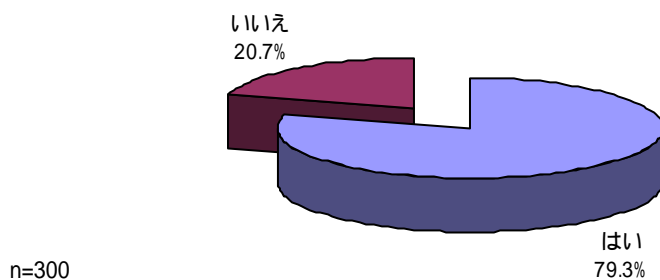
図表 4-1-7 外国留学理由



➤ 海外留学先

日本以外の国への留学意思があったと答えた者が 79.3%であり、日本以外の国への留学ニーズが非常に高い。日本以外の国への留学意思の高い傾向は、在日 ASEAN 留学生や元留学生とほぼ同じである。

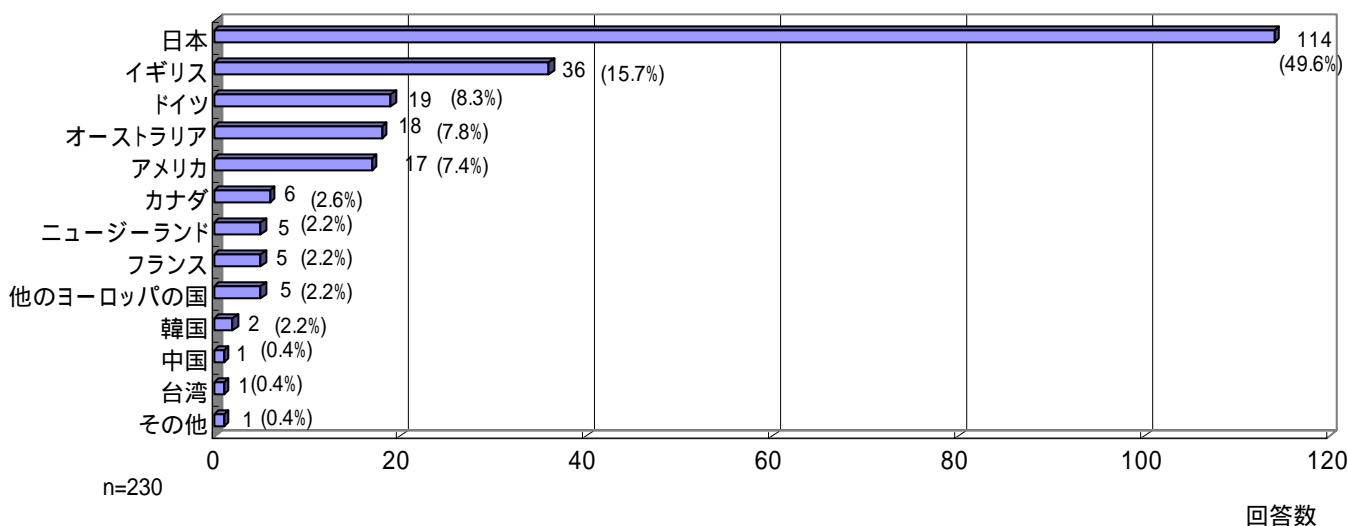
図表 4-1-8 日本以外の国への留学意思の有無



➤ 留学第1希望国

留学第1希望国として日本が1位で49.6%を占めており、英語圏として選ばれた4カ国(イギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダ)の合計の33.5%よりも高い。予備教育課程に在学している学生では、日本を留学第1希望国と答えた者は在日ASEAN留学生や元留学生よりもはるかに高いのが特徴である。

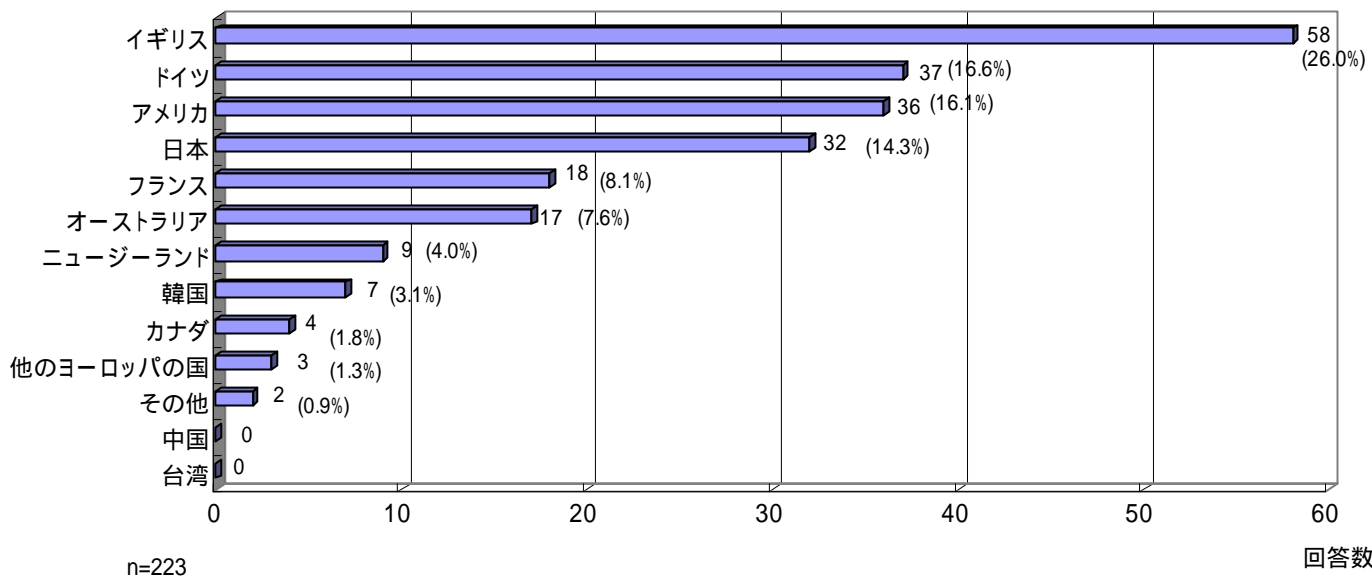
図表 4-1-9 留学第1希望国



➤ 留学第2希望国

イギリスが26.0%で首位、ドイツが16.6%、アメリカが16.1%であるように欧米勢がトップ3位を独占し、日本が4位に後退した。

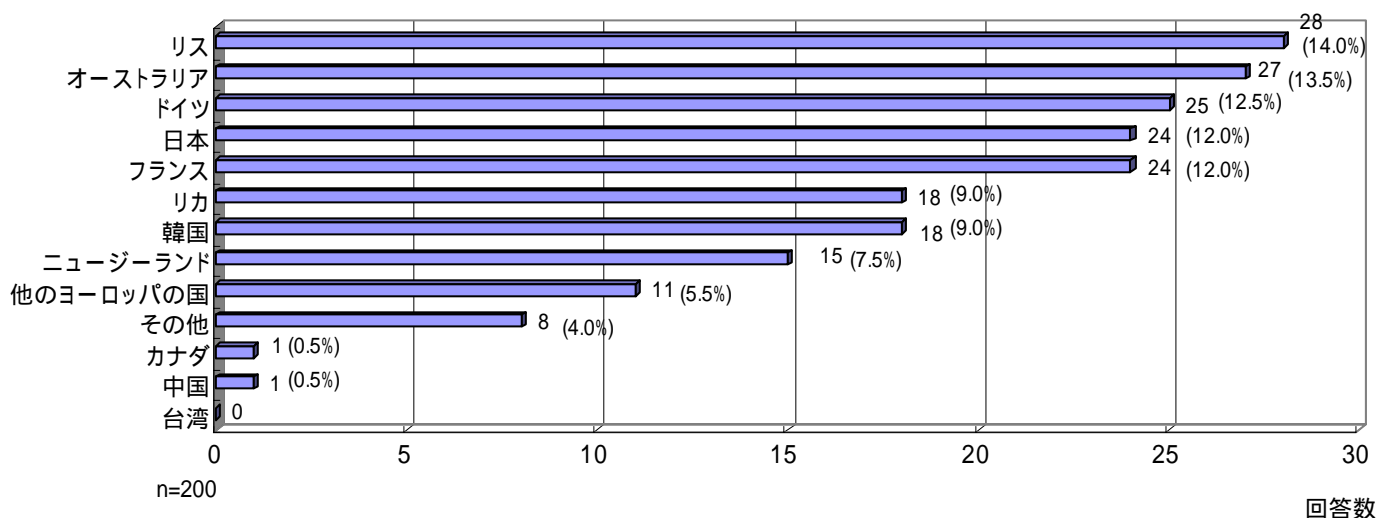
図表 4-1-10 留学第2希望国



➤ 留学第3希望国

イギリスが14.0%、オーストラリアが13.5%、ドイツが12.5%といったように、留学第3希望国についてはばらつきが多い。韓国がアメリカと並ぶ9%を占めている。

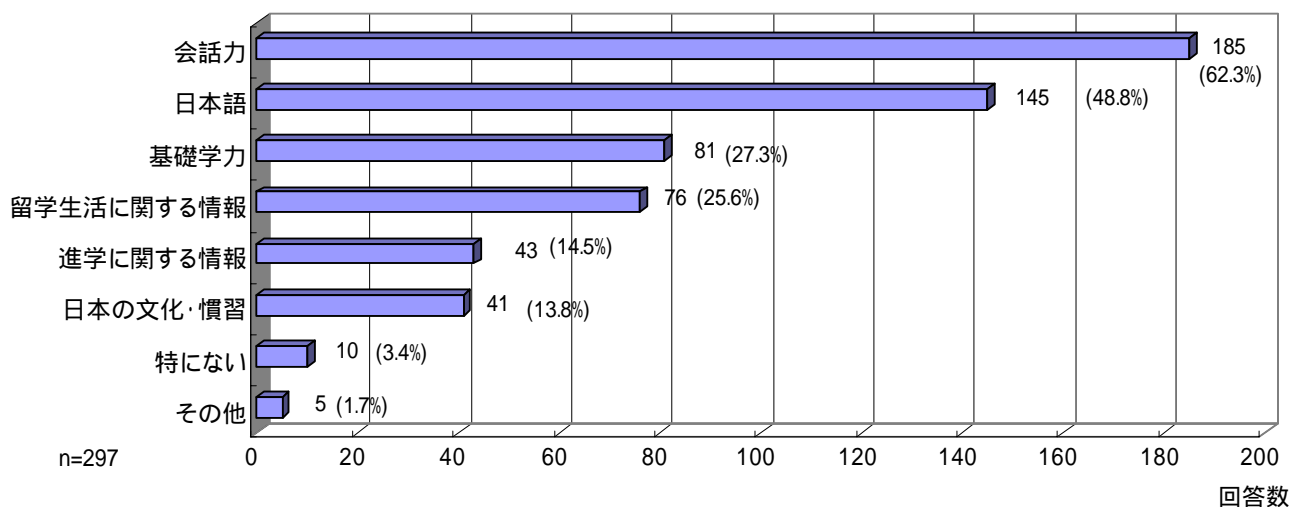
図表 4-1-11 留学第3希望国



➤ 日本留学に関わる不安

日本留学を前にして不安あるいは不足と指摘したのが、「会話力」62.3%、「日本語」48.8%であるように、日本語能力の不足を不安と感じている者が多い。学生からのコメントでも渡日後の日本語能力を心配している学生が多かった。また、留学生活に関する情報の不足を指摘した者が5.6%である。

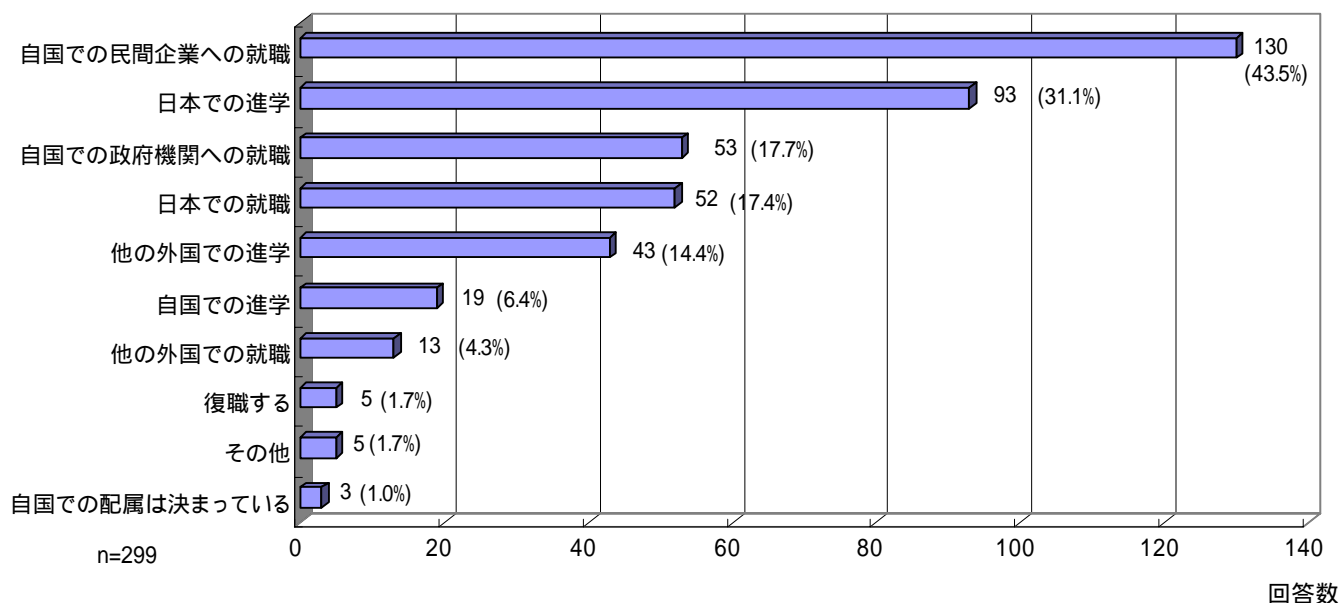
図表 4-1-12 日本留学に関わる不安



➤ 日本留学終了後希望進路

「自国での民間企業への就職」43.5%、「自国での政府機関への就職」17.7%であり、6割強の学生が将来自国で活動することを希望している。一方、「日本での進学」31.1%、「日本での就職」17.4%を希望しているように、約半分の学生が日本に居残ることを希望している。

図表 4-1-13 日本留学終了後希望進路

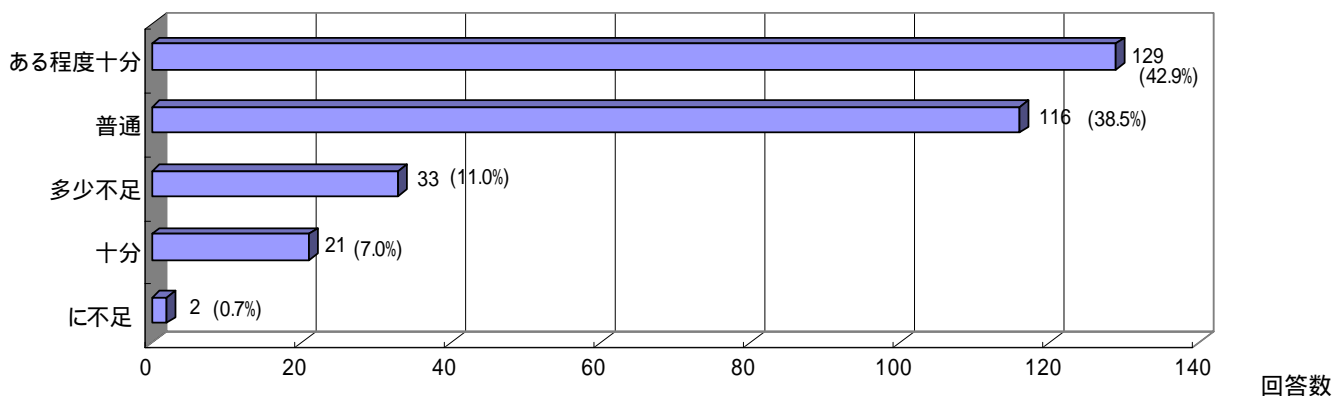


(2) 予備教育課程の現状

➤ 日本語予備教育レベル

42.9%の「ある程度十分」と7%の「十分」とを合わせると、約50%の学生が予備教育課程における日本語の教育レベルは十分と認識している。一方、約11%の学生が「多少不足」と指摘している。予備教育課程在生に対するアンケート調査のコメントにおいても、熱心な先生が多いなど日本語教師に対する評価が高いものの、漢字学習の難しさや日本語を使える機会の少なさ等日本語に関わる問題点を指摘した学生も多かった。

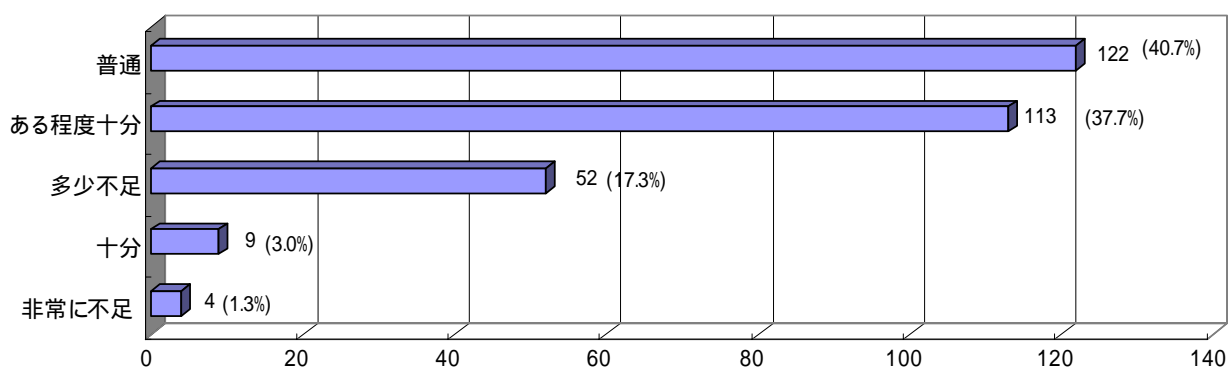
図表 4-1-14 日本語の教育レベル



➤ 教科教育レベル

教科の教育レベルについて「普通」と答えたのが 40.7%と最多である。「ある程度十分」の 37.7%、「十分」の 3%、計 40.7%が十分と認識している。また、17.3%の学生が「多少不足」と指摘しているように、日本語の教育レベルよりもそのウエイトが高い。予備教育課程に在学している学生からのコメントからは、教科に関する教育の不足を感じている学生が多いことが明らかになった。

図表 4-1-15 教科の教育レベル



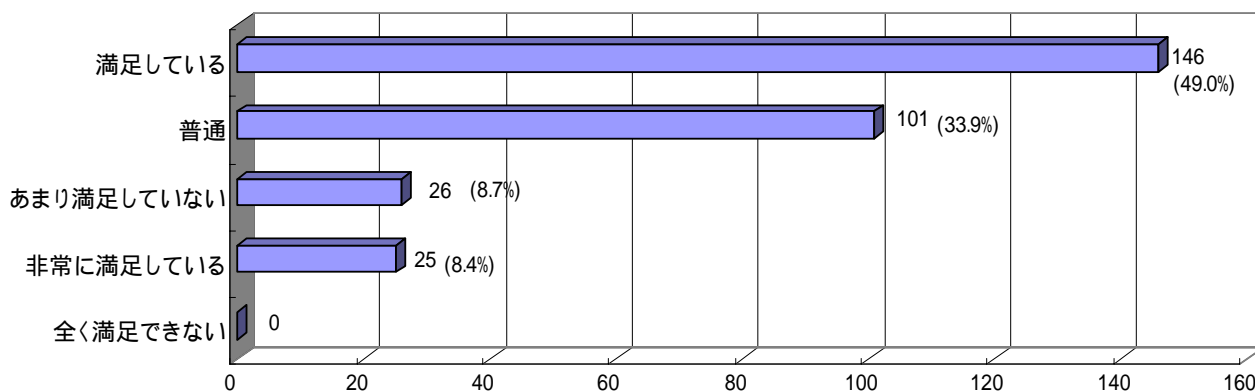
n=300

回答数

➤ 予備教育課程の満足度

約 50%の学生が予備教育課程について満足しているが、「普通」と答えたのが 33.9%であるように、改善の余地が伺える。予備教育課程の在学学生とのインタビューやアンケートのコメントによれば、マレーシアで日本語を勉強する場合、日本語環境と接する機会が少ないことが大きな理由となっていることが分かった。また、予備教育課程の教職員との意見交換では、日本語を教える時間の不足や在籍している学生の学力の低さを指摘している教員が一部いるのも事実である。

図表 4-1-16 予備教育課程の満足度



n=296

回答数

4 - 2 日本留学のための日本語予備教育の今後のニーズ及び方向性

以下では、日本留学の現状及び予備教育課程に関する前節のアンケート分析結果を踏まえ、マレーシアにおける東方政策担当政府機関、日本の援助実施機関、元日本留学生の帰国留学生会、日本語予備教育課程の教職員や学生に対するヒアリングにより、日本留学のための日本語予備教育に関わる今後のニーズ及び方向性を探ってみる。

4 - 2 - 1 予備教育の今後のニーズ

(1) 東方政策の継続性や公的援助がある限り、予備教育のニーズは引き続き高い

1983年にマレーシアのマハティール前首相によって東方政策が提唱され、その目玉である日本留学事業が実施され、今日に至っている。既述のとおり、東方政策では、日本から無償で教員を派遣するなど日本政府の多大な援助の下、毎年約250名の学生がマラヤ大学日本留学予備教育課程(AAJ)とマレーシア工科大学高専予備教育課程に在籍している。マレーシア政府当局とのヒアリングによれば、マレーシアのアブドラ現首相は引き続き東方政策を推進するとの指摘もあり、また2003年12月東京で開催された日ASEAN首脳会談でも同首相は東方政策の継続性にも言及した。さらに、帰国留学生会の幹部との対話では、マレーシア政府等の公的援助があれば日本留学のニーズが今後も高いとのコメントもあった。このように、東方政策の継続性や日馬両政府による公的援助がある限り、マレーシアにおける予備教育課程のニーズは引き続き高いといえよう。

(2) プログラムによりニーズが異なる

図表4-1-1に示されているように、マレーシアにおいていくつかの予備教育課程プログラムが実施されており、それぞれの日本留学ニーズが異なっている。予備教育課程に在学している学生からのヒアリングやアンケート調査のコメントにもあるように、日本語教育については、カリキュラムでの限られている授業時間や全般的な日本語環境の不足という制約の下、学生の日本留学ニーズに合致した日本語教育を行うべきとの声が多く寄せられた。従って、プログラム別に予備教育課程のニーズが異なっており、それぞれのニーズに合致していれば、日本留学のための予備教育課程の必要性が高いと思われる。

4 - 2 - 2 予備教育の今後の方向性

(1) 予備教育課程のPR強化による日本留学パイの拡大

マレーシアにおいて4つの代表的な日本語予備教育プログラムが実施されているが、その存在は現地では必ずしも広く認識されているとは限らない。現地での日本の援助実施機関との意見交換では、日本への優秀な留学生を増やすために、海外における日本留学希望

者の層を拡大せざるを得ず、そのためには日本の教育を行っている予備教育課程のPR強化が重要であるとの指摘があった。実際、この援助実施機関は、日本留学の魅力をPRするために、日本留学の現状や効果についてマレーシアで活躍している元日本留学生の協力の下、元留学生のコメント付きの冊子を作成し、マレーシアにある寄宿舍付きの高校を訪問する予定である。このように、日本留学希望者の拡大においても、日本留学のPR面での予備教育課程の果たす役割が大きいといえよう。

(2) プログラム別の予備教育課程カリキュラムの再構築

日本留学効果を高め、より多くの留学生を日本に誘致するために、プログラム別の予備教育課程カリキュラムの再構築が必要であろう。特に日本語予備教育プログラムとして歴史の長いマラヤ大学日本留学予備教育課程(AAJ)の予備教育課程のカリキュラムについて、AAJの教職員や政府関係者との意見交換では、日本留学の効果を高めるため、AAJのカリキュラムを再構築する必要性についての言及がしばしばあった。また、AAJの元学生で現在日本の大学に留学中のマレーシア政府派遣留學生とのヒアリングでも、AAJの1年目における日本語による授業の実施など、予備教育課程のカリキュラムの再構築を望むAAJの元学生もいることが分かった。さらに、JADで行っているツイニング・プログラムについては、渡日後の学力低下を回避しつつ、さらに留学コストダウンが削減できるように、予備教育課程との更なる連携強化が必要であろう。